

一人暮らしの防災意識と実態調査

JA共済連が一人暮らしの15歳～34歳男女に、不安に思う自然災害や、地震に対する意識、防災対策の実態について調査を行いました。

JA共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 村山 美彦）は、2024年7月12日～7月16日にかけて、一人暮らしをする全国の15歳～34歳男女400人と、一人暮らしの子を持つ40歳以上の男女400人を対象に、一人暮らしでの防災に関する意識と実態について調査を行いました。調査の概要と主な調査結果は以下のとおりです。

■ 調査概要

- ・実施時期：2024年7月12日(金)～7月16日（火）
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査対象：一人暮らしをする全国の15歳～34歳男女400人、
一人暮らしの子をもつ全国の40歳以上男女400人
- ・調査委託先：マクロミル

※本調査に記載の数値は小数第2位以下を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

■ 調査結果

15歳～34歳の一人暮らし若年層が最も不安に思う自然災害は「地震」

・一人暮らしで不安に感じる自然災害1位「地震」（78.3%）。約6割が一人暮らしになって「地震への不安が高まった」（62.3%）。

15歳～34歳は、子どもの頃から国内の大規模地震発生を経験した世代、約7割が 防災教育を受けている

・約7割が「学校の防災教育の授業を受けたことがある」（72.8%）。

一人暮らしで、防災対策を十分に行っているのは16.8%。約7割が被災することを「イメージしたことがない」対策をしていない理由に「具体的な対応策がわからないから」「お金がないから」が上位

・「防災対策を十分に行っている」のは16.8%、およそ6人に1人。防災対策をしていないのは「具体的な対応策がわからないから」（40.5%）、「お金がないから」（32.4%）、「面倒だから」（27.9%）など。

・66.8%は自分が被災することを「イメージしたことがない」、74.5%は被災後にお金がかかることを「考えたことがない」。

一人暮らしで不安が増した今だから、約7割が「防災について学びたい」

・防災について「もっと学びたい」（71.3%）、「実際に大地震の揺れを体験して学べる場に参加したい」（51.3%）と意欲あり。

一人暮らしの子どもを持つ親の気持ち

・一人暮らしをする子どもの親の約7割が「子どもの地震への不安」（69.5%）を感じ、約8割が一人暮らしの子どもは「防災対策をしていない」（77.8%）、「防災対策ができていない」（80.3%）と認識。

・親の60.5%は「子どもに安否確認の連絡をいれている」ものの、17.3%は「連絡が取れず心配を募らせたことがある」。

・「一人暮らしの子どもの防災対策や防災用具の備蓄を確認した」（20.8%）、「一人暮らしの子どもと防災について話し合っている」（28.0%）は少数派。

※本資料は、令和6年8月29日にJA共済連が発表したニュースリリースを基に作成しています。

JA共済連 『防災の日を契機とした「一人暮らしの防災意識と実態調査」について』

(<https://www.ja-kyosai.or.jp/files/2024/202408-2.pdf>)

■ 一人暮らしで最も不安に思う自然災害は「地震」

女性の不安度が総じて高く、「地震」を不安に感じる女性は88.0%

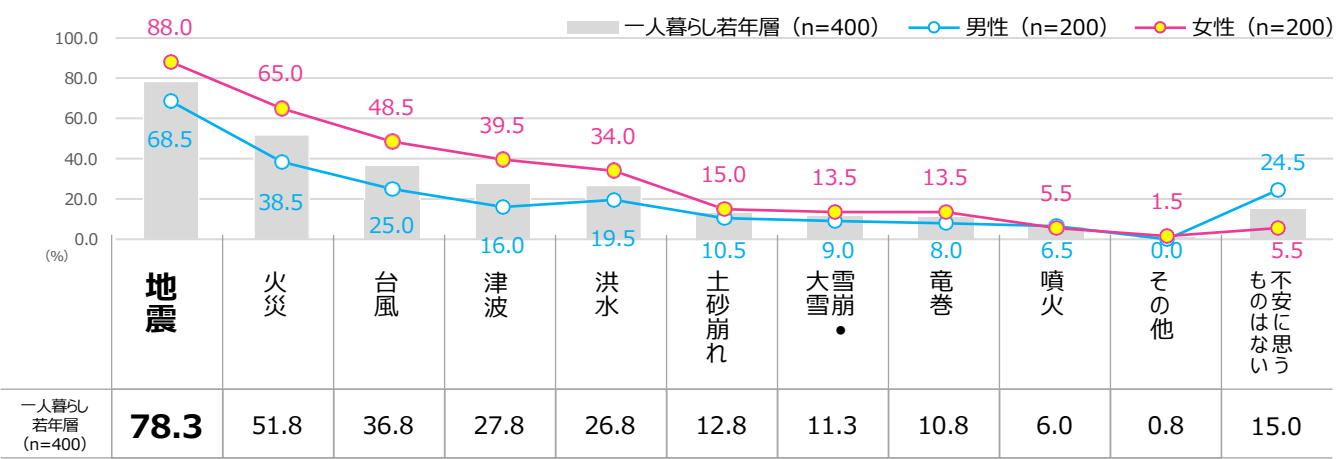
一人暮らしをしている15歳～34歳の男女（以下、一人暮らし若年層）400人を対象に、防災に関する意識と実態について調査を行いました。

まず、一人暮らしで不安に感じる自然災害を聞くと、78.3%が「地震」と答え、最も多くなっています。次いで「火災」（51.8%）、「台風」（36.8%）の順となりました。

男女別で見ると、男女とも「地震」（男性68.5%、女性88.0%）が1位ですが、ほとんどの災害において女性の不安のスコアが高くなっています。一方、男性の約4人に1人は「不安に思うものはない」（24.5%）と答えています〔図1〕。

〔図1〕 一人暮らしをする上で不安に感じる自然災害

Q.自然災害について、一人暮らしをする上で不安に感じるものは？（複数回答）

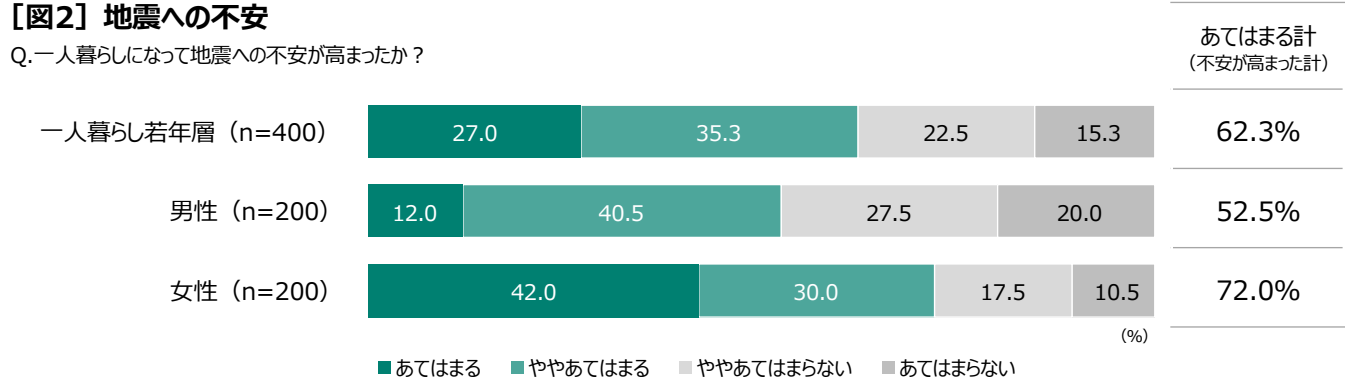


■ 一人暮らしになって地震への「不安が高まった」が約6割、女性の不安は特に高く

一人暮らしになって地震への不安が高まったかと聞くと、「あてはまる」27.0%、「ややあてはまる」35.3%と、「地震への不安が高まった」と感じている一人暮らしの若年層が合計62.3%もいます。男女別で見ると、「不安が高まった」と感じている人は男性52.5%、女性72.0%となり、一人暮らしの女性は、より一層不安を感じています〔図2〕。

〔図2〕 地震への不安

Q.一人暮らしになって地震への不安が高まったか？



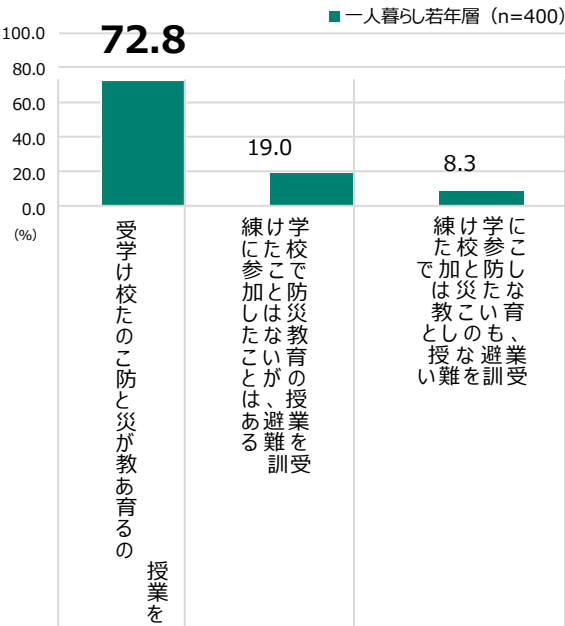
■ 15歳～34歳は、子どもの頃から国内の大規模地震発生を経験してきた世代
約7割が学校で防災教育の授業を受けている

今回の調査対象者である15歳～34歳の若年層は1990年以降に生まれており、1995年の阪神・淡路大震災後に小学校に入学するなど、東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）、能登半島地震（2024年）といった国内の大規模地震発生を経験してきた世代です。

学校の授業での防災教育（災害の発生メカニズムや災害時における危険の認識・日常的な備えについて学ぶなど）について聞くと、72.8%が「学校の防災教育の授業を受けたことがある」と答えています【図3】。

【図3】 防災教育の経験

Q.学校の授業として防災教育を受けた経験はあるか？

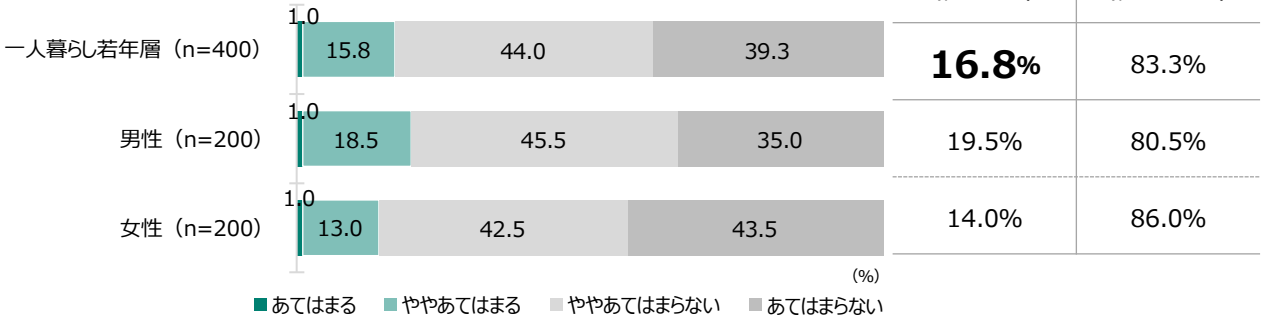


■ 一人暮らしの今、「防災対策を十分に行っている」は16.8%

一人暮らしをしている今現在、防災対策を十分に行っているかを聞くと、「行っている」（あてはまる＋ややあてはまる）と答えたのは16.8%とおよそ6人に1人でした。男女別に見ると、防災対策を「行っている」と答えた人は、災害への不安が大きい女性（14.0%）の方が男性（19.5%）より少なくなっています。

【図4】 現在の防災対策

Q.現在、防災対策を十分に行っているか？



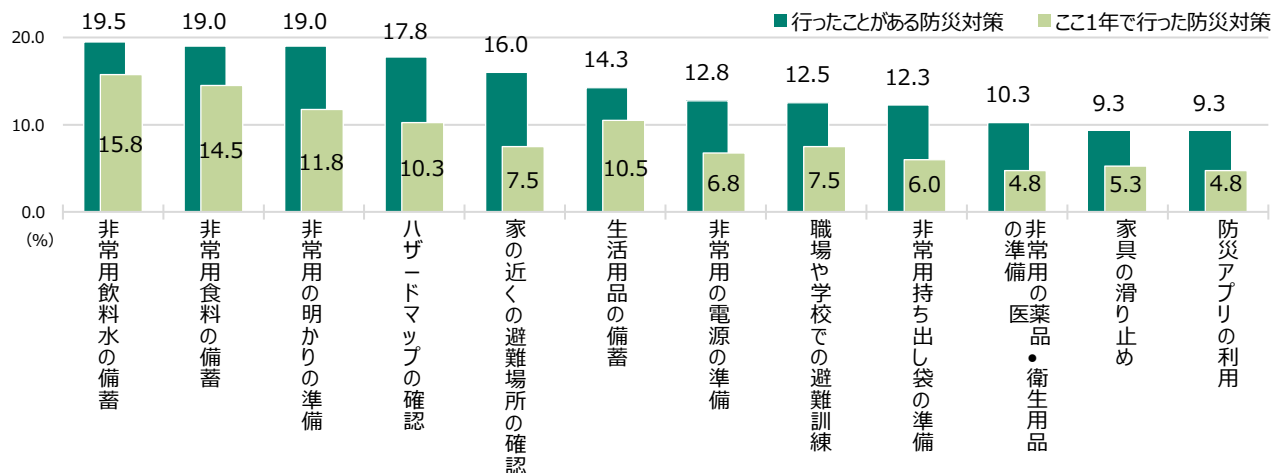
■ 行っている防災対策は、非常用の「飲用水」・「食料」備蓄が2割程度

一人暮らし若年層に現在の住まいで行っている防災対策の内容を聞いたところ、行ったことがあるのは「非常用飲料水の備蓄」（19.5%）、「非常用食料の備蓄」（19.0%）、懐中電灯、ランタン、ろうそくなど「非常用の明かりの準備」（19.0%）などで、いずれも2割以下でした。また、この1年以内に行った対策でも、実践率が最も高い「非常用飲料水の備蓄」でも15.8%、「家具の滑り止め」を行っている人は5.3%となりました〔図5〕。

【図5】今の住まいで行った防災対策

Q. 現在お住まいの環境で行ったことがある防災対策は？ 1年以内に行った防災対策は？（複数回答）

一人暮らし若年層（n=400）



■ 防災対策を十分に行わない理由

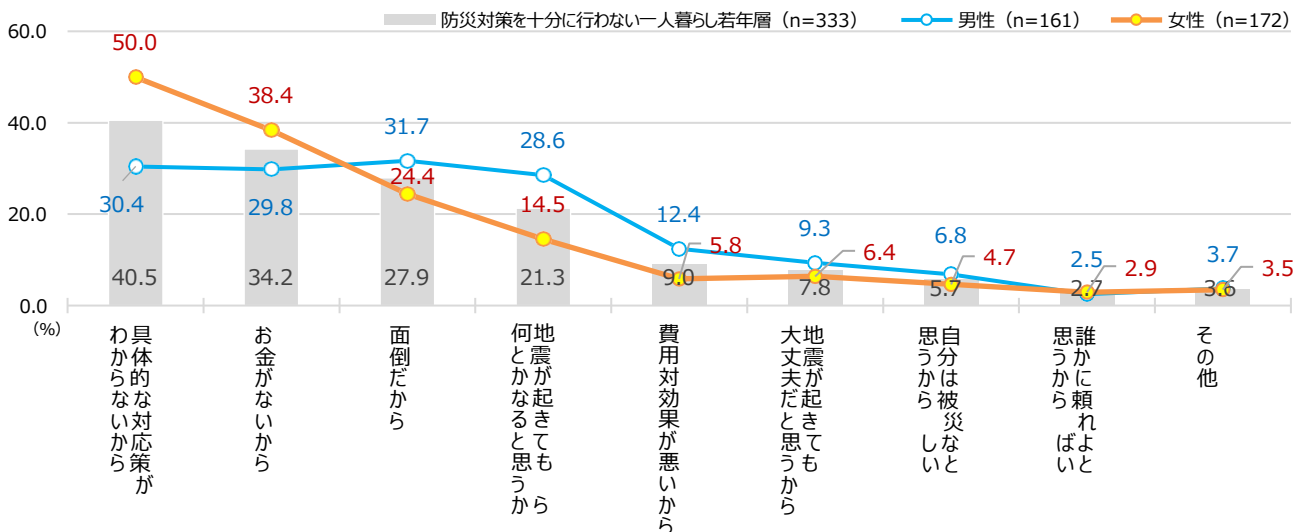
「具体的な対応策がわからない」「お金がない」「面倒」「何とかなると思う」

現在、防災対策を「十分に行っていない」333人（〔図4〕参照）に行わない理由を聞きました。すると、「具体的な対応策がわからないから」（40.5%）が最も多く、次いで「お金がないから」（34.2%）、「面倒だから」（27.9%）と続き、2割の人は「地震が起きても何とかなると思うから」（21.3%）と答えています。

男女別で見ると、女性は「具体的な対応策がわからないから」（女性50.0%、男性30.4%）が、男性に比べ多く、男性は「地震が起きても何とかなると思うから」（男性28.6%、女性14.5%）が女性に比べ多くなっています〔図6〕。

【図6】防災対策を十分に行わない理由

Q. 防災対策を十分に行わない理由は？（複数回答）



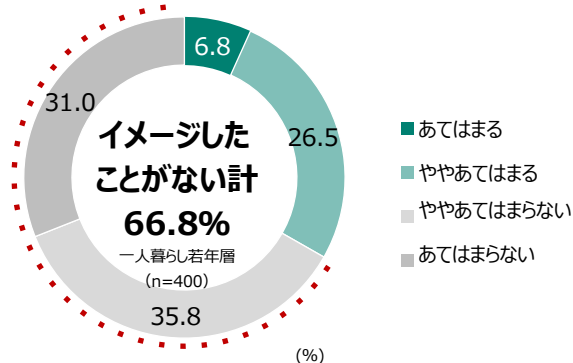
もしも被災したら…？ 約7割は自分が被災することを「イメージしたことがない」、生活立て直しの費用は「考えたことがない」が7割。

日本は地震大国と呼ばれますが、一人暮らし若年層に、被災することをイメージしたことがあるかと尋ねると、約7割は具体的に「イメージしたことがない」（66.8%）と答え〔図7〕、自分が被災した場合、生活立て直しのお金についておよそ4人中3人は「考えたことがない」（74.5%）と答えています〔図8〕。

もし地震が起きて家財や家屋が損壊し、現在の住まいに住めなくなった場合、生活の立て直しにいくらかい費用がかかると思うかと聞くと、約8割が「100万円以下」（78.4%）と答えています〔図9〕。

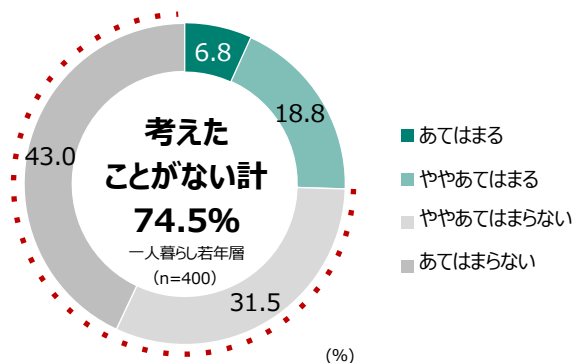
〔図7〕 自分が被災することを具体的にイメージした経験

Q.自分が被災することを具体的にイメージしたことがあるか？



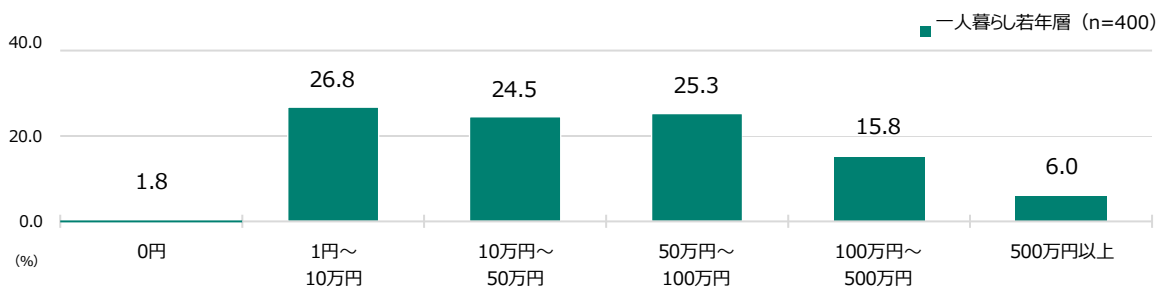
〔図8〕 被災した際、生活の立て直しに お金がかかることを考えた経験

Q.被災後の生活の立て直しにいくらかいお金がかかるかを考えたことがあるか？



〔図9〕 地震が起きて家屋が倒壊した場合、生活の立て直しにかかる費用

Q.地震が起きて家財や家屋が損壊し、現在の住まいに住めなくなった場合、生活の立て直しにいくらかい費用がかかると思うか？

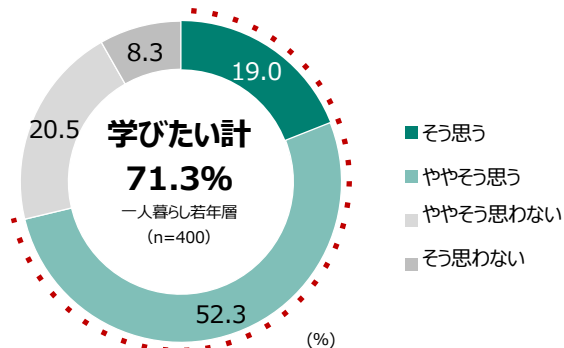


一人暮らしで、不安が増した今、約7割が「防災についてもっと学びたい」

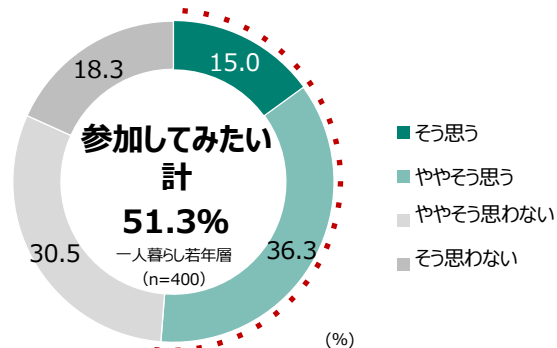
一人暮らし若年層に、今後、防災についてもっと学びたいかと聞くと、約7割が「学びたい」（71.3%）と答え、半数が「実際に大地震の揺れを体験して学べる場に参加してみたい」（51.3%）と答えています〔図10〕。防災対策も防災意識も十分とは言えない一人暮らし若年層。だからこそ、改めて「学びたい」「体験したい」という防災への意欲が高まっているようです。

〔図10〕 一人暮らし若年層の防災についての意識

Q.防災についてもっと学びたいか？



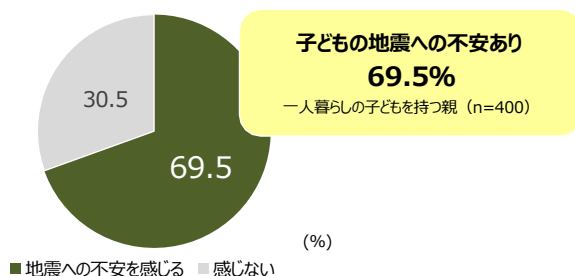
Q.実際に大地震の揺れを体験して学べる場に参加してみたいか？



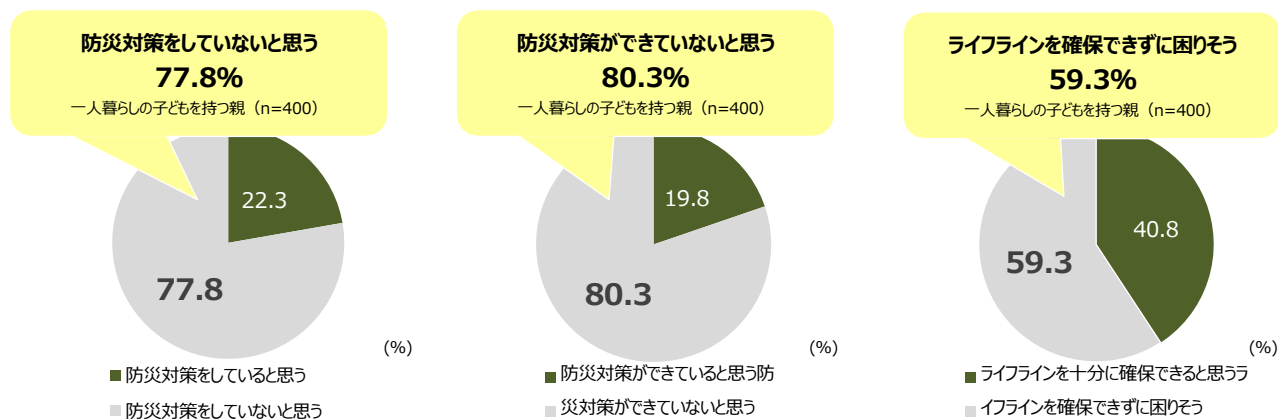
■ 一人暮らしをする子どもの親の不安も「地震」 子どもは防災対策を「していない」「できていない」

一人暮らしの子どもを持つ40歳以上の親400人に聞きました。一人暮らしの子どもを持つ親の約7割が「子どもの地震への不安を感じる」（69.5%）と答えています
〔図11〕、子どもの防災対策について、77.8%は「防災対策をしていないと思う」、80.3%は「防災対策ができていないと思う」と答え、59.3%が「ライフラインを確保できずに困りそう」と心配しています〔図12〕。

〔図11〕 一人暮らしの子どもの地震への不安を感じる



〔図12〕 一人暮らしをする子どもの防災対策は…

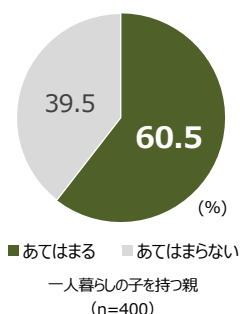


■ 一人暮らしの子どもの防災対策を確認した親は2割 防災について一人暮らしの子どもと話し合った親も約3割のみ

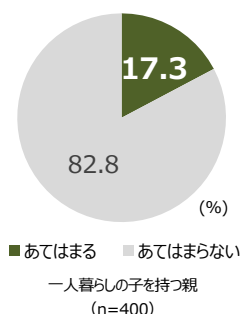
災害時や災害対策に関する親子でのコミュニケーションについて聞いてみました。一人暮らしの子どもが住むエリアでの災害発生時には、60.5%の親が「子どもに安否確認の連絡をいれている」ものの、親の約6人に1人は「連絡が取れず心配を募らせたことがある」（17.3%）と答えています。一人暮らしの子どもの防災対策ができていないと思っているものの、「防災対策や防災用品の備蓄を確認した」親は20.8%、「一人暮らしの子どもと防災について話し合っている」親は28.0%とどちらも少数派でした〔図13〕。

〔図13〕 災害対策に関する、一人暮らしをする子どもとのコミュニケーション

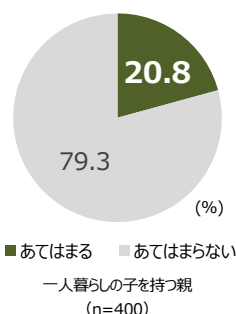
Q.一人暮らしの子どもの住むエリアでの災害発生時に子どもに
安否確認の連絡をいれている



Q. 災害発生時に一人暮らしの子どもに連絡をしたが、**連絡が取れず**心配を募らせたことがある



Q.一人暮らしの子どもの防災対策や防災用品の**備蓄を確認した**ことがある



Q.一人暮らしの子どもと**防災について話し合っている**

